

火災臭は徹底的な脱臭対策が必要です

火災臭対策

焼け焦げ臭は徹底対策が必要

火災で発生する焼け焦げ臭は、臭気の中でもかなり閾値の低い臭気に分類されます。（閾値とは、何のにおいかわからなくても何かにおいを感知できる最小濃度）つまり、焼け焦げた物質やススが少し残留しているだけでも、何かにおいがあることが分かってしまう為、徹底的な対策が必要な臭気なのです。消臭剤を吹きかけるだけなんて、焼け石に水。焼け焦げ臭気の特徴や、下地材に染みついている臭気があることをよく理解した上で脱臭する必要があります。

焼け焦げ臭の成分

焼け焦げ臭の成分には下記のような成分が含まれています。これら成分は自然分解がなかなか進まない物が多く、通常の換気対策では2～3年間の期間が必要です。

<成分> フルフリルアルデヒド、プロピオンアルデヒド、n-ブチルアルデヒド、n-パレルアルデヒド、トルエン、ペンタン、プロパン、ベンゼン、1-ペンテン、塩化水素、ヘキサン、イソペンタン

スケルトン状態へ

壁や天井に染みこんだ焼け焦げ臭は、空間に漂う焼け焦げ臭の数百万倍です。この染みこんだ臭気の対策は非常に困難で、換気をいくら行っても換気を停止するとすぐに室内に臭気が充満してしまいます。その為、汚染された内装材を撤去し、スケルトン状態にするのが最短で確実な方法といえます。

染み込んだ焼け焦げ臭

スケルトン状態にしても、天井裏やコンクリートには焼け焦げ臭が染みこんでいます。そこで効果的なのがオゾンガスです。オゾンガスは市販の消臭剤とは異なり、染みこんだ臭気を強力に酸化分解し低減します。さらに、オゾンでは反応しにくい臭気には、業務用の超高分子薬液を使用し低減します。使用する薬液は市販の消臭剤のような良い香りでごまかすタイプではありません。臭気の強さにもよりますが、火災後の焼け焦げ臭除去には、5～10日間の期間が必要です。作業中は関係者以外入室禁止の処置を取ります。

ダイオキシンの生成

火災事故現場においてはダイオキシンの発生や残留による健康被害が問題になっております。燃焼した材質にもよりますが、低温でくすぶるように燃えることが多い火災現場では大量のダイオキシンが生成されます。現場の残留ダイオキシンについて確実な調査と対策が必要です。

お打合せ
施工要領書
提出



スケルトン
工事（別途）



焼け焦げ跡
ススの除去



開口部の
サッシ復旧
or 密閉養生



オゾン脱臭
+ 薬剤噴霧
(5～10日間)



におい測定
立会い検収
施工報告書
提出

脱臭後、ニオイセンサーにて臭気測定し、臭気レベルの保証をします。

施工要領書・施工報告書(測定値・施工写真付)を提出いたします。

マンション

- ・ マンション 2LDK
- ・ 210m³
- ・ 脱臭前臭気レベル： 値：650
- ・ 脱臭後臭気レベル： 値：240
- ・ 写真：右はオゾン生成装置
左は超高分子薬剤の噴霧
- ・ 状況：既設の分譲マンションで火災発生。即座にゼネコン様からお電話があり打ち合わせ。まずスケルトン状態に解体し、クリーニング屋さんが焼け焦げ跡やススを完璧に除去しました。オゾン脱臭は当初7日間の予定でしたが、前処理が完璧であったため4日間の工事期間に短縮できました。



営業倉庫

- ・ 倉庫、倉庫屋根裏
- ・ 7.000m³
- ・ 脱臭前臭気レベル： 値：880
- ・ 脱臭後臭気レベル： 値：260
- ・ 写真：右はオゾン生成装置
左はニオイセンサー臭気測定
- ・ 状況：倉庫内で火災発生し、倉庫内が燃え屋根裏にもススが全体に広がりました。オゾン生成装置は酸素ガスを使用する高濃度タイプを複数使用し、超高分子薬剤も数度にわたり噴霧して臭気を低減しました。面積が膨大なため、10日間の脱臭工事となりました。



老健施設

- ・ 老健施設増築工事
- ・ 3.500m³
- ・ 脱臭前臭気レベル： 値：390
- ・ 脱臭後臭気レベル： 値：203
- ・ 写真：右はオゾン生成装置
左は密閉養生(木枠)
- ・ 状況：増築中に発泡ウレタンに引火して火災発生。天井や壁の真っ黒に焦げた発泡ウレタンは高圧洗浄と人工によるケレンで綺麗にさせていただきました。オゾン脱臭装置は酸素ガスを使用する高濃度タイプを複数使用して臭気を低減しました。施工容積が大きいいため7日間の脱臭工事となりました。

